



日本共産党市会議員

2026年 6月 1日

庄本けんじ

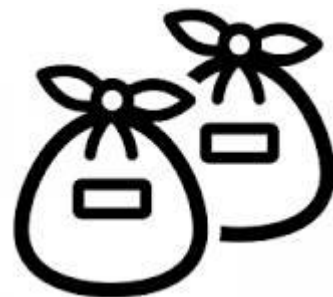
携帯 090-6665-9401 議員控え室 0798-35-3368

活動ニュース

戦争の影響がこんなところまで

ゴミの指定袋が店頭から消える

西宮市が指定するゴミ袋が、店頭から無くなりはじめています。アメリカとイスラエルが起こしたイラン戦争の影響が、ゴミ袋の品薄にまで及んできたためです。政府は、ナフサは足りていると、呑気なことを言い続けていますが、現実生活では、病院の医療資材など生死にかかわる分野を含め、さまざまところに影響を広げています。品薄と急激な物価の高騰によって暮らしが圧迫され、仕事が滞り、経済活動が混乱しています。



消費税の減税をはじめ、暮らしへの支援、中小業者への直接支援など、全般的で、抜本的な緊急対応と対策が緊急に求められています。

西宮市が臨時のごみ排出措置 6月1日～7月31日

- 指定袋以外のごみゴミ袋の使用を可能とする⇒透明、半透明の袋
- 共通指定袋の代わりに折り畳み式コンテナの使用を可能とする

使用できない袋・出し方は次の通りです

- 中身が見えない袋（黒色、半透明でも濃い色などの袋）
- 紙袋、段ボール箱など（袋状でないもの）
- 他自治体の指定ごみ袋

対象ごみ	認められる袋・方法
生活系もやすごみ用指定袋	中身が見える 透明または半透明の袋（45L 以下）
生活系共通指定袋 （プラ資源、缶・PET、不燃、古着）	中身が見える透明または半透明の袋（45L 以下）
事業系可燃ごみ指定袋	中身が見える透明または半透明の袋（90L 以下） ※「事業所名」を必ず明記してください

ごみの分別方法に変更はありません。

日本共産党西宮市会議員団が市長に申し入れ

4月24日（金）、日本共産党西宮市会議員団は、イラン攻撃による業者・医療現場への影響に対する支援を求める申し入れを、市長に手渡しました。新型インフルエンザ（コロナ）感染症が蔓延したときのような緊急の対策が必要です。政府は、ナフサなどの物資不足という事態を認識せず、もっぱら流通の目詰まりが原因との立場に固執し、抜本的な対策を取ろうとしません。西宮市からも政府に強く要請するとともに、市でできる対策を取るよう強く求めました。また、戦争終結を求める世論の先頭に立つことを求めました。



イラン攻撃による事業者・医療現場等への影響に対する支援を求める申し入れ

アメリカ、イスラエルによるイラン攻撃により、ホルムズ海峡が事実上封鎖され、エネルギー価格や物価の高騰、とくに、原油価格の上昇により、物資の入手困難が分野を問わず広範囲にひろがり、暮らしと営業、医療に重大な打撃を与えています。

兵庫県保険医協会がおこなった医療材料の供給状況に関する緊急アンケート調査によると、供給に支障があると答えた開業医は全体の85.2%（4月7日時点）にのぼり、具体的には、医療用グローブ、シリンジ、消毒用アルコールなどの入手困難、納期延期、数量制限、価格上昇などの影響があるとされています。

また兵庫県商工団体連合会の調査では、「シンナーが不足し、ネットでは価格が20倍に」（塗装業）、「ポリプラスチックや塩ビなどが受注停止。材料が入らなければ、仕事ができず社員に給料が支払えない」（樹脂製造加工業）などの実態が報告されています。石油・ナフサ系原料のサプライチェーンへの影響で、1カ月の休業を余儀なくされている大企業もあり、多くの業者に影響を広げています。

資材不足で、今後の経営などの見通しが立たず、資金繰り支援の踏み込んだ措置や事業者への財政的支援が急務です。

ところが、日本政府は、「日本全体として必要となる原油の料は確保されている」との認識に立ち、石油由来の資材不足の原因を、もっぱら流通段階の「目詰まり」にあると強調し、「目詰まり」への対応に終始しています。緊急の抜本的な対応が求められています。

西宮市として、ただちに市内のあらゆる分野の事業者への影響について、実態を把握し、必要な抜本対策を、県と国に求めるとともに、市として緊急に対応すべき課題を精査し、実施することを求めます。

あわせて、アメリカ、イスラエルによるイランへの攻撃に対して、西宮市として抗議するとともに、国がアメリカ、イスラエルに対して、イラン攻撃をただちに中止することを求めるよう要請します。

以上

西宮民主商工会も西宮市に緊急申し入れ



（庄本けんじ、野口あけみ、三好さつき、久保田けんじ）

5月15日（金）西宮民主商工会が、西宮市に、イラン戦争による影響に対する支援を求める申し入れをおこないました。

党市議員団の3名（庄本けんじ、野口あけみ、三好さつき）の議員と久保田けんじ県会議員が同席しました。当局との懇談では、「材料が4割も高騰した」「材料が入ってこなくて仕事ができない」「お客さんに待ってもらっている」「これからは本格的に大変になる」「物価高騰の見通しが立たず、見積もりが書けない」など業者の苦境が訴えられました。やはり、コロナの時のような直接支援がどうしても必要と切迫した訴えが続きました。